

提出先：内閣総理大臣、経済産業大臣、衆議院議長、参議院議長、原子力委員会委員長、  
原子力安全委員会委員長、資源エネルギー庁長官、原子力安全・保安院長、  
泉田裕彦新潟県知事、会田洋柏崎市長、品田宏夫刈羽村長、清水正孝東京電力取  
締役社長

平成 23 年 3 月 24 日

柏崎刈羽原子力発電所の透明性を確保する地域の会  
会 長 新 野 良 子

地域の会意見書の提出について

平成 23 年 3 月 11 日に起こったマグニチュード 9.0 の東北地方太平洋沖地震の地震動と津波で甚大な被害が発生しました。13 日余り経過した現在でも被害の全容が把握できませんが、犠牲者と被災者の方々にお見舞いとお悔やみを申し上げます。

地震被害に日々対応されている関係者の方々に、また福島第一原子力発電所において事態の沈静化に対処されている方々に、心より感謝と敬意を表します。

「柏崎刈羽原子力発電所の透明性を確保する地域の会」は、柏崎刈羽原子力発電所立地地域で多様な考えを持つ住民の参画により、発電所そのものの賛否はひとまず置いて、発電所の安全性・透明性確保に関する事業者の取り組み並びに国及び関係自治体の活動状況等を継続して確認・監視し、提言等を行うことを目的に平成 15 年 5 月に発足し活動を続けております。

東北地方太平洋沖地震による大規模で広範囲な深刻かつ悲惨な被害が生じたことは、大きな驚きとして受け止め無念に思います。また、現在深刻な事態となっている福島第一原子力発電所で発生した過酷事故についても、原子力発電所との共生を余儀なくされている柏崎刈羽地域の住民としては、震災や新潟県中越沖地震の経験もあり、他人事ではない厳しいことだと受け止めています。

今回の事故に対する関係機関、電力会社による対応は、原子力防災計画が有効に機能していないのではないかと危惧しています。

情報発信の不手際が不安や不信を助長したと考え、急ぎ臨時会を開催しました。柏崎刈羽地域の住民としての意見を集約いたしましたので、お取り計らい方よろしく願いいたします。

その中でも、少しの明かりが現場の決死の賜物として伝えられ始めています。

中越沖地震を契機に設けられたモバイル保安院も機能し始めており、この緊急事態が一刻も早く終息することを願っております。

地域の会事務局

〒945-0017 新潟県柏崎市荒浜一丁目 3 番 3 2 号  
(財)柏崎原子力広報センター

TEL0257-22-1896 FAX0257-32-3228

E-mail [info@tiikinokai.jp](mailto:info@tiikinokai.jp)

<http://www.tiikinokai.jp>

提出先：内閣総理大臣、経済産業大臣、衆議院議長、参議院議長、原子力委員会委員長、  
原子力安全委員会委員長、資源エネルギー庁長官、原子力安全・保安院院長、  
泉田裕彦新潟県知事、会田洋柏崎市長、品田宏夫刈羽村長、清水正孝東京電力取締役社長

## 意見書

平成23年3月11日に起こったマグニチュード9.0の東北地方太平洋沖地震の地震動と津波で甚大な被害が発生しました。13日余り経過した現在でも被害の全容が把握できませんが、犠牲者と被災者の方々にお見舞いとお悔やみを申し上げます。

地震被害に日々対応されている関係者の方々に、また福島第一原子力発電所において事態の沈静化に対処されている方々に心より感謝と敬意を表します。

「柏崎刈羽原子力発電所の透明性を確保する地域の会」は、日頃から多様な住民の目線で情報公開と説明責任のあり方を中心に発電所の安全確保のため、監視・提言組織として活動を行っており、今月第93回定例会を終えたところです。

東北地方太平洋沖地震による大規模で広範囲な深刻かつ悲惨な被害が生じたことは、大きな驚きとして受け止め無念に思います。また、現在深刻な事態となっている福島第一原子力発電所で発生した過酷事故についても、原子力発電所との共生を余儀なくされている柏崎刈羽地域の住民としては、震災や新潟県中越沖地震の経験もあり、他人事ではない厳しい事態であると受け止めています。

今回の事故に対して、関係機関及び東京電力は、想定外の地震と津波に襲われ、外部電源の遮断に加えて予備電源が機能を喪失したことが原因だとしています。しかし、どんなことがあってもこれ以上の事故に発展させるようなことは、絶対あってはなりません。

また、情報の交錯と遅れが、国民の不安と不信感を助長し、風評被害も広がりつつある今、さらに放射能汚染の拡大をも憂慮しております。

関係機関及び東京電力は、柏崎刈羽地域住民の思いを深く受け止めて真剣に対応されることを求めます。

### 記

- 1 事故の終息に向け、関係者は全力を尽くしてください。
- 2 有事に情報と対策の一元化のため設置されたオフサイトセンターの考え方が生かされず、より住民の不安と不信を招いております。長期戦になるものと考え一刻も早い機能回復を望みます。
- 3 技術的な安全と情報をもたらすことのできる安心はどちらも不可欠です。情報は責任ある立場から定期または定時に継続されることが有効であると考えます。正確な情報を敏速に公開すること、その際には経過も含めた丁寧な解説とその根拠、時には先の見通しを示すことが重要です。
- 4 関係機関が、しっかり連携を取ることが必要不可欠であり、そのことが国民の安心につながります。
- 5 原子力発電所設置の基本的な考え方、自然災害に対する想定と対策の見直しが必要となるでしょう。これからは国民とも情報を共有し、困難があろうと互いに合意し納得し合いながら施策が進められることが不可欠だと考えます。

平成23年3月24日

柏崎刈羽原子力発電所の透明性を確保する地域の会  
会長 新野 良子